

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人柏寿会		
事業所名	グループホームやすらぎの家		
所在地	〒021-0901 岩手県一関市真柴字柊木立43-96		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和7年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活：一部支援の入居者様の割合が多くなりそれぞれのペースで過ごされる事が増えております。自分のペースで無理しない自然体で生活できる環境作りに努めております。また、自分でできる事は見守り、必要な部分を「さりげなく・なにげなく」支援しております。コロナ流行後、面会や外部との関わりの方では、制限せざるおえない状況が続いております。その中で、テレビ電話の活用やケースバック・電話での状況報告をし、入居者様・ご家族様が不安にならないようできる限りの取り組みをしております。体調管理に力を入れ、普段の様子と違う際はかかりつけ医と連携し早期発見・早期治療を実施しております。夜間急変も少なく、夜勤帯の職員も安心して業務できています。ケアプランに関しては、半年更新とし入居者様の希望に沿うようなプランを作成しております。

環境：入居者様にとって過ごしやすい環境作りに力を入れています。家庭菜園に力を入れ、スイカ・メロン・キュウリ等の栽培をしております。農業に従事されてきた方々の助言を受けながら収穫までの期間を楽しんでいます。天気の良い日はウッドデッキで歌をうたったりお茶会をしたりと、にぎやかに過ごされています。アットホームな環境で「第二の我が家」と言える佇まいとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、一関市内から旧花泉町に向かって車で10分程度の、自然あふれる環境下にある飲食店兼宿泊施設を改修した1ユニットのグループホームである。「自分らしく・さりげなく・和やかに」の事業理念に基づき、利用者一人一人に寄り添いながら、個々のペースに合わせた対応と、利用者本人の強みを生かす支援の実践に努め、家族には毎月たくさんの写真を掲載した「お便り」と1ヵ月分の「生活記録」を届けている。一人一人の健康面や楽しみを意識したケアプランのもと、利用者はゆったりと穏やかな生活を送ることができている。事業所の庭にある畑では季節の野菜やスイカを植栽収穫しており、利用者が一緒に作業を行ったり、収穫した野菜を使った料理を楽しんだりしている。時々のご近所からお裾分け等を通して地域との交流も図られている。今後は、運営推進会議も積極的に活用しながら、地域との様々な交流事業の再開が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

事業所名 : グループホームやすらぎの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人柏寿会の理念を基に、事業所の理念を作成しております。理念に基づき職員の個性を発揮したものとしております。	「自分らしく、さりげなく、和やかに」という利用者本位の理念を掲げ、施設内の数箇所に掲示して、年度初めに読み合わせを行い、毎月の職員会議でも小さな目標を話し合いながら業務を行っている。理念は職員間の価値観の共有に生かされ、管理者が介護計画を作成する際にも意識されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人・運営推進会議・かかりつけ医・近所の付き合い等を通して交流を行っております。コロナ流行後自粛が続いておりますが、少しずつ以前の状況に戻りつつあります。	コロナ禍以後、保育園児との交流やボランティアの来所等の再開には至っていないが、家族による三味線の披露や、敷地内の畑で作っている野菜のおすそ分けなどを通して少しずつ近所とのつきあいが回復してきた。地域の高齢者の方からの相談にも対応したり、事業所でも地域の方々を気にかけるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々とは、家庭菜園を教えて頂いたりお裾分けしたりと何気ないご近所付き合いをしております。高齢者の見守りの場ともなり、何かあった際はご家族様に様子を報告しております。避難訓練にも参加していただき、協力体制を整えております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催を予定しております。コロナ流行以降、文書での対応となっております。	運営推進会議は、入居者代表、民生委員、区長、市の担当者が委員となり、2カ月に1回書面会議の形で開催している。地域の関係者に対しては、事業所の状況を報告し、民生委員や区長からは地区の最近の状況などについて情報提供がある。	コロナ禍以降、運営推進会議が書面開催となっておりますが、お互いに顔が見える関係性の中で、事業所として困っていることや協力を得たいことを地域に積極的に伝えていくことで、更なるサービスの質の向上を図ることが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、メールや電話にて連絡しております。運営推進会議の担当者とは、現在書面開催の為、文書を直接お渡ししています。その際助言等いただいております。	市の介護保険課や地域包括支援センターの職員が運営推進会議のメンバーになっており、メールや電話でやりとりをしている。生活保護の担当者は毎月事業所を訪れ、介護認定の更新や変更の際には、介護保険課へ気軽に相談ができるような関係を築いている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームやすらぎの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤帯は、1名体制である事、防犯の理由により施錠しております。身体拘束廃止委員会を年6回開催し、都度職員内で共通理解を深めております。	事業所の身体拘束廃止委員会を2ヵ月毎に開催し、e-ラーニング等を活用して、職員への意識づけを行いスピーチロックについても声を掛け合うようにしている。家族の了承を得て、1名に赤外線センサーを設置している。玄関の施錠は、原則夜間のみであるが、事業所が道路に近接しているため、2か所にセンサーを設置している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、内部研修を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回は内部研修として学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明等の説明をしております。分かりやすさや伝わりやすさを第一に考え説明するよう心掛けております。最終的に理解を得たか確認をし、了承していただくようにしております。不明な点はいつでも相談を受け付けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会制限もある中で、可能な限り普段の様子をお伝えするにしております。その他、電話やケースバックを利用し、普段の様子をこまめに報告する場を作っております。会話の中で、遠慮なく意見を言っていたり関係作りも行っております。頂戴した意見は、職員間で共有し、改善すべきところはすぐに行動するように意識づけております。	通院同行や薬を届けるため家族が来所した際には、時間を定めて居室での面会を再開しており、必要な利用者家族には時間を延長して面会ができるよう配慮している。毎月、写真を掲載した「やすらぎ便り」、1ヵ月分の生活記録を送付して、利用者家族と事業所が思ったことを話し合える関係づくりに努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人の評価を実施しております。自己評価と上司評価で相違があった際は、フィードバック時に意見交換しております。働き甲斐のある職場作りをチームで行い、離職の少ない事業所となりました。	管理者による職員面談を年2回行い、職員の意見に耳を傾けている。全居室へのクーラーの設置や共有スペースの大型加湿器の導入など、職員の提案を基に事業所の環境整備を進めてきた。管理者は、利用者の強みを生かし、職員と話し合える関係を大切にしながら、運営全体の改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に上層部への相談・報告を意識し、労働環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修だけでなく、職員間で理念に沿って業務にあたっているか確認しながら日々過ごしております。入居者様の過ごしやすさを求め、お互い意見交換する事を大切にしております。「〇〇の状況ではどう動く?」「この時〇〇様はどう感じていたか?」とシミュレーションやロールプレイも大切にしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では経営者会議に出席し、経営面での安定を模索したり他部署の現状理解を深めたりしております。良くなるための提案を積極的にし、法人として向上できるようにしております。外部の取引先や同業者とも関係性を深めております。お互い情報交換を密にし、地域での協力体制も強化しております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時、本人様の要望をくみ取り自分らしく暮らせるようにしております。普段の様子も観察し、さりげなく自分らしく暮らせるよう工夫しております。関係作りにはまずは職員ひとりひとりが受け入れられるよう努め、信頼関係を作るようにしております。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームやすらぎの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には施設見学していただき、その時点不安や困りごとを伺い、少しでも安心していただけるよう努めております。ケアプランにも盛り込み、安心して入居できるようにしております。また、入居翌日には様子を電話にて伝え、安心していただけるよう配慮しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているか？施設に入居しても楽しみを継続できるか？を第一に考え、必要とされるサービスを含めた対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、相互の関係性を大切にしております。「介助」ではなく「支援」と思い、「さりげなく」支援する事で、入居者様ひとりひとりの役割を持つことができております。労いの気持ちも忘れず、お互いの信頼関係が構築できていると思われます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ流行後から、面会制限が続いております。幾らか緩和されておりますが、まだまだ以前のよう状況にはありません。その中で、ご家族様と入居者様が一緒に過ごす時間を大切にしたいと考えております。テレビ電話も活用しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前に電話をいただき、万全な体調で面会に来ていただいております。面会時間の制限はありますが、コロナ禍に比べると幾らか緩和できていると思われます。なるべく関係性が途切れないよう努めております。	家族同行の通院やドライブの際には、利用者の行きたいところや会いたい人に配慮している。利用者や家族の希望によって、電話連絡はいつでも取り合うことができています。訪問理容は2、3か月に1回、内科は月1回、2か月に1回は皮膚科医の訪問診療も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様にも相性があり、また性格やパーソナルスペースも異なる為、それを踏まえ関係作りに努めております。「第2の我が家」として、リラックスできるよう無理強いはいないようにしております。お互いの役割には自然とねぎらいの言葉がでて、関係性は良好のようです。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気兼ねなく来ていただけるよう、努めております。新たな入居先に情報をいただいたりご家族様に様子を伺ったりしております。必要時には相談に応じられるよう退去時にはその旨伝えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や意向に沿った対応をしております。意思疎通が困難な方は、生活歴やご家族様から教えていただき、それを基に対応しております。個別の対応を心がけ、その人なりの暮らし方に寄り添っております。	殆どの利用者が言葉でのコミュニケーションができています。「漬物が食べたい」「お風呂に入りたい」「日向ぼっこをしたい」「○○はいやだ」などの、利用者本人の気持ちを尊重しながら、事業所の中で思い思いに生活できるように配慮している。入居間もない方については、特に意識して、本人の気持ちを汲むようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々にフェイスシートを作成し、生活歴・病歴等を理解した上で支援しております。家族様や関係者から情報をいただき、情報を増やしていくようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し支援しております。今までの生活も継続できるよう工夫しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議において検討会を開催。計画書2と支援経過を用いて検討しております。普段の様子や生活歴を参考に、本人様に見合ったプランを作成しております。	入居後の初回の計画は3ヵ月、他は6ヵ月ごとに介護計画の見直しを行っている。モニタリングは毎月管理者が行い、職員会議で利用者の生活状況や変化を共有している。介護計画の目標は、健康面や利用者本人の楽しみの両方を勘案しながら設定するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や状況等をケース記録へ、職員からの情報を基に支援経過を作成しております。介護計画の見直しに活かされるよう情報収集に努めております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は基本ご家族様対応しております。遠方にいる方や高齢家族のみ等の対応困難な方に限り施設対応しております。ご家族様の状況も鑑みながら対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等の活用や、世代間交流等も活用しております。地域で支え合う関係作りを目指しております。 ※コロナ流行後以降、自粛しておりますが、地域との関係作りは継続しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる限りかかりつけ医を利用しております。情報提供書を活用し、医療との連携を図っております。	かかりつけ医の受診は、家族同行を原則としており、家族を通して受診後の主治医の指示の確認している。事業所として看護師の配置はないが、必要時には法人本部の看護師から助言を得ている。また、体調不良者は昼間のうちに医療機関を受診するよう特に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での気づきを大切にしております。些細な変化を見逃さず、他職員と確認する事を習慣化しております。早期発見・早期受診をし、重症化を防ぐ努力をしております。同法人の看護師にも確認し、指示を仰ぐ事も意識しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に関しては、文書や口頭による情報提供をしております。入院中は医療相談室と連携し、退院後スムーズに施設生活が継続できるよう体制を整えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約段階から今後の在り方をご家族様と共有し、要介護3以上の段階で特養への申し込みを依頼しております。普段からケースバック等を通じて状態の変化を理解していただき、本人様が生活しやすい環境を第一に考えております。	利用者の皆さんが、この事業所が元気に自分らしく生活する場となるよう心を込めてサービス提供している。看護師の配置がないことや環境上の制約もあって要介護3以上になった際には、住み替えを支援することを入居時に説明している。ケアの継続性に十分に配慮しながら、転所先の施設に対しては丁寧な情報提供を行っている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会・職員会議での研修。現在入居されている方々の病歴から、起こりうる急変や事故に備え職員間で物品補充や訓練をしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施(日中・夜間想定)。火災だけでなく、自然災害等も想定し訓練を実施しております。近隣や協力団体にも協力をいただいております。	法人本部でBCPを策定済みであり、ハザードマップ上問題がある地域ではないが、年2回(昼間1回、夜間1回)必ず避難訓練を実施している。非常時に備えて発電機の準備をしており、数日分の飲料水、食糧の備蓄がある。必要に応じて、近隣の特別養護老人ホーム、隣家の家主、区長、民生委員等にも協力をお願いしている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋はそれぞれの「家」とし、入室の際はノックと声掛けをしております。排泄や入浴の場面では、声掛けの際は、近くで他者に気付かれないよう配慮しております。ひとりひとりの動き出しに合わせ、自分のペースで過ごせるよう心がけております。	利用者の尊重の一環として、声掛けは「さん」付けで統一し、守秘義務を徹底するなど、利用者や職員が友達感覚にならないよう特に配慮している。居室の入室時にはノックと声掛けを行い、入浴の際にも、湯舟にゆったりつかっている間は、声をかけながら浴室と脱衣所の間のドアを閉める等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定できるよう、答えやすい質問や選びやすい工夫をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活リズムを把握し、それぞれに合った対応を心がけています。体力やその日の状態に合わせ、臨機応変に対応できるよう準備しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自由、毛染めや髪の長さ等も継続できるよう支援しております。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホームやすらぎの家

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯・汁物以外は、チルド食を採用しております。管理栄養士による指示の下作られたメニューなので、味はもちろん魚の骨も食べやすいよう工夫されております。ご飯・汁物を味付けご飯やおふかし、はっと等を作り、皆様に喜ばれております。入居者様と一緒に皮むきや洗い物をする事も日課となっております。	献立とおかずは配食業者に依頼し、ごはんと汁物は職員が調理し、きざみ食、おかゆ等の対応も行っている。利用者の嗜好に配慮して現在の配食業者を選定した。食卓には庭で作った季節の野菜やスイカが登場し、行事食にも対応している。干し柿の皮むきやおやつ作りには利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い食事を心がけております。量にも気をつけ、食べ過ぎないように管理しております。水分も飲みたい時に飲めるよう工夫しております。火傷に気をつけ自由に飲める環境を作っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に合わせ、歯磨き・うがい等に対応しております。拒否が酷い方は、難しいのでお茶でうがいをしていただいております。誤嚥性肺炎等の予防で口腔体操を行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗で羞恥心を減らす為、職員は本人様や他者に見えないよう配慮しております。また、排泄リズムや動き出しに合わせさりげなく対応できるようにしております。ひとりひとりに合ったアイテムを使用し、皮膚トラブルの予防にも努めております。	排泄は自立している方がほとんどだが、安心感のため紙パンツを着用している方が多い。居室にポータブルトイレを設置している方は4名いる。職員は排泄チェック表で利用者の体調管理を行っており、排泄を失敗した際には、本人の様子を見てそっと声をかけて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物を摂っていただいたり水分や活動量を増やしたりと、自然排便に繋がるよう努めております。慢性的な便秘の方には、主治医の指示の下、下剤を使用しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週に2回入浴していただいております。入浴剤を使用し、癒しの時間になっていただけるよう工夫しております。職員も入浴の際はさりげなく見守るよう配慮しております。拒否が強い方は、無理強いせず別日に入っていただく等臨機応変に対応しております。	午後の時間帯を基本に週2回の入浴で清潔を保持している。職員は、浴槽への出入りや背中を流すなどの一部介助や見守りを中心に対応している。一人で静かに入るのが好きな方が多く、ゆったりと入浴が楽しめるよう、入浴剤やゆず湯なども取り入れている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も適度な静養を自由にできるような環境作りをしています。30分程度静養し、スッキリした表情で共有スペースへいらっしゃる方が増えております。夕方以降は刺激を減らし、徐々に就寝へ向けた準備をし、快適に就寝できるよう配慮しております。夜間頻尿等で良眠できなかった方は、その分昼間でも休めるよう声掛けしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を基に誤薬のないよう注意喚起しております。また、薬が変更や追加になった際は、職員間で情報共有し、状態をケース記録に入力し、医師へ報告できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに見合った役割をお願いしております。たたみ物・テーブル拭きがほとんどですが、メダカの手世や家庭菜園の指示や収穫もお願いしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行後外出の頻度は減っております。徐々に緩和し、通院の際食事をしてきたり自宅へ寄ってきたりされるようになっております。	「心も外に出る」ことができるよう、昼間は利用者自身が玄関や窓を開けることができる。外に出てベンチで過ごしたり、山菜を取りながら散歩したり、職員と一緒に畑作業をして汗をかく利用者もいる。コロナ禍以降、通院以外の外出が難しくなっていたが、今年は数名でお花見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様・ご家族様に了承いただき、預り金として管理しております。必要程度の金額をお渡しし、購入していただいております。出納帳へ記入し、不足のないよう管理をダブルチェックで行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時は、職員が電話をかけ、本人様に代わっております。携帯電話を使用している方もおり、操作を確認し、間違いのないよう見守っております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームやすらぎの家

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔ながらの造りなので、入居者様にとって馴染める空間となっているようです。テレビの音量や不快に感じる刺激が少なくなるよう配慮しております。	共用スペースの窓は大きく、食卓用テーブルやソファ、テレビやエアコン、ファンヒーターが備え付けられ、メダカの水槽も置かれている。ウッドデッキには夏はグリーンカーテン、秋は干し柿が吊るされ、利用者はいつも季節を感じながら思い思いの場所で、自分らしく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が落ち着いて過ごせる場所づくりとして、リビング・廊下にソファを設置しています。誰が使用しても良いように、ゆっくりと過ごせる環境を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物を持参していただき、自分の部屋という意識を持っていただける工夫をしております。遺影や仏壇を持参される方もおります。	各室にベッドやクローゼット、テレビやテーブル、椅子等が配置され、エアコンは全室に設置されている。遺影や位牌等も含めて本人が大切にしているもの、思い入れのある品を持ち込んで好きな場所に置いたり掲げたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの動線に合わせた配慮をしております。部屋の配置や共同生活の場でスムーズに行動できるよう配慮しております。伝い歩きができ、トイレへ行きやすくなったとの声も聞かれています。		